

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月7日

【評価実施概要】

事業所番号	〃0175000413
法人名	社会福祉法人 北見有愛会
事業所名	グループホーム ゆう&あい ひまわり
所在地	北海道北見市花園町38番地6 (電 話) 0157-69-8633
評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年11月7日

【情報提供票より】(20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 6 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.2 人	

(2)建物概要

建物構造	木 造 造 り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費15,000～21,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4)利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 71 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	為山堂医院 ・ 塩田内科医院 ・ 玉越病院 ・ 若原歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北見市花園地区の道々北見～置戸線に面した住宅地にある2階建て2ユニットのホームで、隣接して同法人の配食センターがあります。自治会活動が活発な地域という特性があり、ホーム設立時より様々な協力を得ることができています。災害時の体制も整いつつあります。法人共通の理念に加えて、利用者の言葉に感動し、利用者、職員で話し合い作成された独自の理念『感謝 常に感謝を忘れずに…笑顔でいられる事に感謝。共に寄り添い生きていける事に感謝。自分らしく、自分のままでいられる事に感謝。全ての人に会えた事に感謝』を心に置きながら職員は日々のケアに取り組んでいます。リビングの窓から眺められる山々からは季節の移り変わりをを感じる事が出来て、利用者は明るく、穏やかな毎日を過ごしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点である災害対策については、町内会と話し合わせ、町内会役員とホームの連絡網の整備、夜間想定訓練の実施等取り組まれています。今後、冬期間の訓練を実施する事も検討されています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 日々のケアを見直し、ケア向上の機会として職員各自が自己評価に取り組み、会議に於いて話し合いそれを管理者が纏め作成されています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年9月に第一回が利用者、利用者家族、地域包括センター長、町内会役員のもと開催されています。運営推進会議の意義、ホームの説明等が話し合わせ、同12月に二回目が開催されました。その後、諸事情で開催されておりませんが、今年度中の定期的開催を目指し取り組んでいます。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関ホールに意見箱が設置されています。管理者、職員は家族の面会時に積極的に声を掛け何でも話して貰える関係を築く様に努めています。又、管理者の携帯電話番号を家族全員に伝えてあり、その都度連絡が取れる体制になっています。相談、要望、意見等があった場合は会議に於いて話し合わせ職員で共有しケア向上に繋げています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ホーム便りやホームからのお知らせ等も回覧されています。自治会活動が活発な地域であり、ホームが設立当初から日常的に交流しており、利用者・職員は顔馴染みの関係を築いています。災害対策に於いての協力体制も整備されています。

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の言葉「感謝の気持ちを忘れたら人間駄目だよ」の言葉に感銘して職員みんなで話し合い、ホーム独自の理念として掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念を意識して利用者に心地よく過ごしてもらう為にどうすればよいかを話し合い、支援をする事を心掛けており、月1回のケース会議でも理念を振り返り取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し総会にも出席してホームの内容も報告しており、隔月で発行しているホームたよりを回覧板に添付して活動の理解を得る様努めています。近所の住民も気軽に立ち寄ってくれる関係が出来ています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を渡し検討した後に、ケース会議の中で管理者とユニットリーダーと共に取りまとめています。前回の外部評価についてもケース会議で検討し改善点無くすように見直しています。結果をホーム玄関内に置き家族や住民に閲覧できるようにしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに、包括支援センター担当者・町内会役員・家族・管理者で構成されており、特に町内会の支援体制が協力的で専任の推進委員3名を選出して会議に参加する体制を取っておりホームで報告と意義及び意見要望苦情と災害協力等を話し合い、議事録は町内会の総会に閲覧用として提出しています。	○	2～3ヶ月に1度の開催になっていますが、平成19年は、12月まで2回開催された以降はスケジュールの都合が合わず延期になっています。議事録は今迄通り町内会へと出席者及び家族全員に配付、定期的に開催される様望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護福祉課・保護課とは密な連携を取っています。また保健所や消防・医療関係にも相談しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の日常の様子や金銭管理の報告をしています。また頻繁に面会出来ない家族には電話や郵送などで受診結果やヒヤリハット事故報告など日常の様子をその都度報告しています。隔月発行しているホームたより「ひまわり通信」に利用者毎の様子や職員紹介・行事の写真を載せ、また個別に手紙なども添えて家族に送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していますが利用はされておらず、面会時や電話で相談や苦情を遠慮なく言える関係が築かれ、運営規定・外部評価・苦情相談窓口も玄関に掲示しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1F・2Fの職員の異動はありませんが、系列のグループホームに異動は行なわれており、管理者及び職員は、異動があった場合ダメージを最小限に抑える配慮をしており、利用者や家族に馴染んでもらえる関係を築いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上をあげる為、資格取得への助成と内部外部研修の参加を支援しており、希望する研修があれば参加出来るよう配慮しています。毎月開催の系列グループホームとの全体会議と3ヶ月毎の職員含めた全体会議を開催、当ホームでのケース会議で外部研修の報告会を行なっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列4社のグループホームとの交流と勉強を兼ねての会議を持ち回りで毎月実施しており、市内他の事業所へ見学に行き相談に載っていただきスキルアップの取り組みも行なっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に複数回の面談を行い、ホーム見学や家族への説明と聞き取りを行い、利用者が馴染めるよう配慮し工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からならわしや料理を教えてもらったり、畑での世話(野菜の種まきや収穫時期)など学んだり支えあう関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつや食事や入浴・レクリエーション・外出の希望があれば取り入れて生活が出来る様支援をしています。		
を					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	原則6ヶ月ごとに家族と共に利用者の現在の状況を伝え、月1回開催されるケース会議の中で管理者と計画作成担当者が中心となって職員全体の意見をまとめ機能の維持向上を心掛けて家族の承諾を得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直しており、その都度状況に変化があった場合は、毎月見直しをして迅速に検討し対応しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院介助や送迎支援をしています。洗濯支援、散歩や買物、ドライブに出掛ける利用者等の外出支援もしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護ステーションにより利用者の健康状態を把握しています。近所にかかりつけ医がいる協力病院があり、往診してもらえ、急変があった場合など密な連携を取っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を見直し重度化・終末期の対応に向けて取り組んでいます。入居開始時には利用者・家族・主治医・訪問看護ステーション・管理者含め話し合いが来ています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のケア記録の記入は見守りながら食堂で行い、利用者や家族の目に触れないよう保管も慎重に取り扱っています。言葉掛けにも注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせるのではなく利用者の気持ちを尊重し、生活リズムに合わせて柔軟な対応を取る様心掛けています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは配食センターによって決めています。誕生会等の行事食では利用者のリクエストを聞いて取り入れた食事を作る工夫や、盛り付けや配膳まで役割をもって支援をしています。畑で収穫したかぼちゃやいも団子を作って食べたりしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日になっていますが、利用者の希望に沿って入浴時間を決めてはおらず、健康状態やタイミングに合わせた入浴を支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	塗り絵・縫い物・編み物や掃除、食事の盛り付けや配膳の家事から歌を歌う、畑仕事や花の世話まで出来る事の支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買物などの外出支援を行なっています。ドライブへ行きたい利用者には希望を叶える支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間だけ玄関に施錠していますが、それ以外は自由に出入できます。居室には鍵を付けない支援をしています。施錠の弊害について理解をしており、引き続き鍵を掛けない実践に努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常持ち出し物品などマニュアル化されており避難訓練及び消火訓練を年2回実施しています。町内会との非常災害時の連携が取れており、連絡網や訓練への参加により地域との協力体制が出来ています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量・水分摂取量はケア記録に記入し共有しています。一人ひとりの状況に応じ食べやすい大きさや硬さに注意して支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓は南東面に大きく取りカーテンで光の量を調節したり、暖房にはFFストーブと床暖房を取り入れ安全に配慮しています。居間や廊下に行事での写真を飾り季節感を取り入れています。食事前に歌う歌詞を張ったり、居室やトイレには大きく名前を張り出す配慮もしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	7.5帖の大きさの部屋に今まで使っていたベットやダンスなどの家具や人形・写真等を持込んで変わらない生活空間を作り出しています。		